

タイトル：2022年度 教育セミナー（第18回）

日時：2022年9月15日（木）～18日（日）

ハイブリッド開催

原田 理央（慶應義塾大学大学院文学研究科）

今回の中東☆イスラーム教育セミナーは昨年・一昨年のオンライン形式に3年ぶりの対面形式を加えたハイブリッド形式で開催されましたが、それにより他の受講生や講師の先生方と個別にコミュニケーションをとる機会を作ることができました。もちろんオンライン形式の開催にも多くのメリットがありますが、それでもこうした研究報告の場に足を運ぶことの重要性を改めて実感いたしました。

本セミナーの重要な特徴のひとつは、中東地域やイスラーム圏という研究対象を媒介として、多種多様な研究分野や専攻に身を置く受講生や講師陣の研究報告や講義を聴くことができるという点にあると思っています。講義や他の受講生の方の報告を通して今まで自分が持っていなかった新しい視座や手法を見つけることができたように思われます。

それから、講義や報告の場以外での個人的なやりとりができたことも貴重な経験でした。私が大学院に入学した昨年度はほとんどの研究会や学会が感染症対策としてオンラインでの開催となっていたこともあり、学校外の学生と知り合う機会がほとんどなかったのですが、今回の教育セミナーを通じて多くの学生との交流を持つことができ、刺激を受けると同時に励みにもなりました。ここでできた新しい交流は上述したように領域・分野横断的なネットワークであり、私はそこから多くのことを学んでいけるはずだと思っています。学生との交流以外に、講師の先生方と直接お話をすることができたことも重要でした。私自身は今回の教育セミナーで研究報告をすることはできなかったのですが、分野や問題関心の近い先生に修士論文についての相談をする機会を得ることができました。

先生方の講義でお話しいただいたことの中では、もちろん研究内容もそうですが、それだけでなく先生方の研究そのものや研究対象に対する向き合い方であるとか、個々人のライフストーリー的な部分についてのお話がたいへん印象に残っています。研究者のこうした側面について聞く機会というのはあまりあることではなく、非常に興味深く聞くことができました。ここで聞いたことが、将来いつか参考になるだろうと感じています。

4日間という長いようで短い時間でしたが、私はこの教育セミナーを通じて多くの成果を得ることができたと実感しております。最後になりますが、感染症が猛威を振るうなかでこうした貴重な機会を設けていただいた事務局のみなさまにも御礼申し上げます。